

曽我兄弟 富士の夜襲（1956）

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 Color
時間 110分
初公開日 1956/10/17

【解説】

日本三大仇討ちの一つとして知られる「曽我兄弟の仇討ち」を、イーストマン東映カラーとオールスターキャストで描く。複数の脚本家によるペンネーム五都宮章人の原案をもとに「ふり袖太平記」の八尋不二が脚本を書き「忠治祭り 剣難街道」の佐々木康がメガホンをとった。

鎌倉将軍、源頼朝の時代。河津三郎祐泰は狩りの帰り、かねてから恨みを抱かれていた工藤祐経により殺害されてしまう。祐経の計略により、遺された妻と二人の子供は世間から冷たい目で見られ、さらに二人の子供は頼朝から処刑を命じられた。だが重臣の畠山重忠の嘆願により、二人の処刑は何とか見送られる。やがて子供たちは十郎、五郎と名を改め、父の仇を討つため剣の腕を磨いていた。十二年ぶりに再会した兄弟は、義理の父から小袖と佩刀を受け取り、祐経が現れるという狩り場に向かうのだった。

【クレジット】

監督 佐々木康
製作 大川博
企画 マキノ光雄
大森康正
小川貴也
植木照男
原案 五都宮章人
脚本 八尋不二
撮影 三木滋人
美術 鈴木孝俊
音楽 万城目正
出演 中村錦之助
大川橋蔵
東千代之介
高千穂ひづる
花柳小菊
大友柳太朗
片岡千恵蔵
月形龍之介
三笠博子